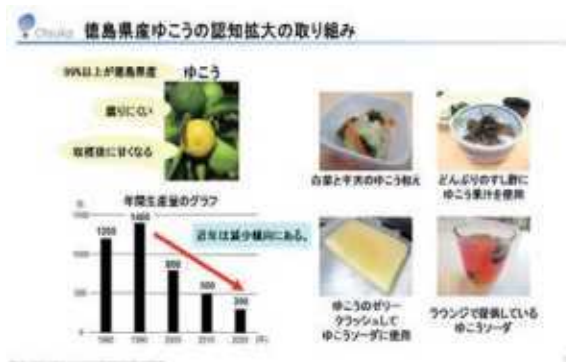


かぶしきがいしゃおおつかせいやくこうじょう そ う む ぶ しゃいんしょくどう
株式会社大塚製薬工場 総務部 社員食堂

～地産地消で社員の健康増進と地域活性化～



社員食堂での提供によるゆこうの周知



すだちの皮を使用したメニュー

経緯

- 事業を通じた社会課題の解決、自らの持続的な成長と健康でサステナブルな社会の実現のためにはまず社員が健康であるべきとの想いから活動を行ってきた。
- 社員の健康増進に役立つ食材が地元徳島に多かったこと、また、地域貢献も進めていきたいとの考えから、社員食堂での地産地消の活動に取り組み始めた。

取組内容

- 徳島県ならではのメニューを開発することで、社員の嗜好にも配慮し、健康面でのサポートができる社員食堂としての運営に取り組んでいる。
- 徳島県産の食材を使用した上で、本来は廃棄されるような部分でも栄養価があり使用できるものは、有効活用している。
- 生産者との交流により、安定的な取引実現と安心して生産できる環境づくりに取り組んでいる。

活動の効果

- 平成30年度には、ほぼ全ての野菜を地元企業からの仕入れを開始し、令和5年度からは肉、魚等についても地産地消を推進している。
- 地元徳島産食材を可能な限り使うことで、社員の健康増進と地域の生産者に貢献や持続可能な社会の実現に寄与している。
- 徳島県産食材の購入額は、540万円(平成30年度)から1,870万円(令和5年度)で3.5倍に増加。徳島県産食材の使用割合(金額ベース)も11%から32%に増加した。

応募団体からのアピール・メッセージ

地元の生産者と積極的に関わり食材の仕入れや認知向上に取り組むことにより、生産者の売上げに貢献していきたい。そのため、生産者との交流を深め安定的な取引を行い生産者が安心して生産できる循環を広げていく。

住所・電話番号・SNS等

鳴門市撫養町立岩字芥原115 Tel:088-685-1151



かぶしきがいしゃ ほんけまつうらしゅぞうじょう
株式会社 本家松浦酒造場

～人の集う酒蔵「ナルトタイの店」で世界に情報発信～



酒蔵でのイベント開催



棚田米やゆこうを使った酒造り



経緯

- 日本酒の生産・販売量が減少する中で、徳島の豊かな農産物、美しい自然や農村の景観を製品開発や販売戦略に活用する取組を開始。
- 昭和62年から酒蔵の中では早期の段階で日本酒の輸出にも取り組む。

取組内容

- 日本酒の原材料として、全量、徳島県産米を使用。また、徳島県特産の香酸柑橘「すだち」、「ゆこう」を使ったりキュールの開発。
- コウノトリの餌場となる休耕田を活用したビオトープで栽培された米を使った日本酒を製造販売し、コウノトリの保護活動を支援。
- 酒蔵周辺エリアを紹介する「鳴門酒蔵街道」の動画・HPを作成。また、酒蔵において、地域や徳島の農産物の魅力を伝えるイベントを開催。

活動の効果

- 酒蔵への来場者は7,324名(令和2年度)から15,876名(令和4年度)と2年間で倍増し、併設する直売所の売上げは36%増加した。
- 日本酒の輸出額は、平成30年度から4年間で20%増加した。
- 香酸柑橘を使ったりキュールや棚田米、ビオトープ米等を使った日本酒の製造により、生産者の生産意欲の向上や自然保護活動の支援につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

- 酒蔵を育む農村景観等を発信することにより、酒類の輸出拡大に取り組みたい。
- すだち、鶯宿梅、ゆこう、ゆず、みかん等、徳島県及び近隣県の特産農産物の付加価値の向上と持続可能な生産への支援を具体化していきたい。

住所・電話番号・SNS等

鳴門市大麻町池谷字柳の本19番地 Tel:088-689-1110

のぎく さと
なかがわ野菊の里

～消えゆく食材 復活の決意！届け究極の逸品～



伝統黒米 弥生紫のご飯とパッケージ、収穫



20年目を迎える継続的な食育活動

経緯

- 代々栽培している伝統黒米「弥生紫」は、1,300年の長い歴史がありながら消滅の危機にあったが、「全国に誇れるお米のブランドにする」と奮起。
- 農薬・化学肥料を使わず、昔ながらの栽培方法で、地域の歴史に眠る伝統食材を復活させ、魅力の発信に取り組む。

取組内容

- 代々、我が家のみで栽培している伝統黒米「弥生紫」、約100年前伝統米「徳ばん」の継承・復活。
- 重要無形民俗文化財の「阿波晩茶の製造技術」を継承し、希少価値の高い在来茶葉で伝統的な生産方法を行い、消費者に直接販売。
- 農薬・化学肥料を使用せず、落ち葉を発酵させて米、阿波晩茶を栽培。
- 食育活動として、「学校向け食育だより」の発行や米の栽培体験を実施。

活動の効果

- 農薬・化学肥料を使用せず、落ち葉を発酵させて米、阿波晩茶を栽培するなどの環境保全の取組により、水生生物が増加。
- 毎月発行している「学校向け食育だより」や農業体験などの食育活動により、学校教育へ伝統米の導入。
- 耕作放棄地の活用や伝統技術の継承により、山間地の農業の活性化に寄与している。

応募団体からのアピール・メッセージ

全国には沢山の守るべき食材がある。それらは地域に眠る伝統食材という宝である。伝統黒米「弥生紫」のような食材を、これからも復活させていきながら、地元の方のみならず、県外や海外の方にも広めて行きたい。

住所・電話番号・SNS等

阿南市那賀川町小延94-1 Tel:088-664-1311

HP: <https://nogikunosato.shop-pro.jp/>

YouTube: なかがわ野菊の里

X: @nogiku_yoshi

～私がデザイナーに！？ 人生を変えた出会い～



徳島新聞「ピープル」に掲載



農業に関わるデザイン事例

経 緯

- 徳島県へUターン後、阿波市観光協会に在職中、若手農家のグループ「GOTTSO阿波」と出会う。
- 農業でまちおこしをしようと情熱を燃やす姿に衝撃を受け、自分にしかできないサポートの形を模索。
- 2019年に独立し、これまでの経験をいかして農業や6次産業に関わるデザインを制作。

取組内容

- デザイナーとして様々なデザインを制作する傍ら、「GOTTSO阿波」の事務局として、資料作成、写真撮影、営業、取材への同行、窓口の役割等、グループを縁の下で支えている。
- 「GOTTSO阿波」での活動から派生して、農家、農業関連企業、6次産業事業者等からのデザイン制作、ブランディング等を受託。

活動の効果

- 徳島県阿波市の魅力のひとつとして、「GOTTSO阿波」の存在を内外にPRすることができた。
- 「GOTTSO阿波」での活動で、いいものを作っている商品を知ってもらうきっかけとしてデザインは必要不可欠であると体感。魅せ方に工夫したパッケージは、生産者、バイヤー、消費者に高く評価していただいている。

応募団体からのアピール・メッセージ

デザイン等でのサポートにより、グループや農業自体をより魅力的なものにしていきたい。また、「GOTTSO阿波」や農業を含めた「地元」に恩返しができるよう、知識や技術を高めて貢献していきたい。

住 所 ・ 電 話 番 号 ・ S N S 等

HP: <https://gems-creation.localinfo.jp> E-mail: gems-creation@outlook.jp



て ら い み の る

寺井 稔

～農業が、何倍も楽しくなった理由(ワケ)。～



コロナ禍が明け、試食販売を再開



食育の授業

経 緯

- 兼業農家に生まれ、高校卒業後は食品スーパーへ就職。「生産から販売まで、自分でやってみたい」との思いから、28歳の時に就農。
- 農業後継者のグループが地元にあると聞き、「何か面白いことができるかもしれない」と平成27年から「GOTTSO阿波」に加入。

取組内容

- 「野菜の力でまちおこし」を目標に、関西から関東まで野菜の出張販売や広報を幅広く行い、「まちのPR隊」として活動している。
- 「GOTTSO美～[®]ナス」の生産を始め、ブランド野菜として確立させた。小学校での食育を実施。
- グローバルGAP、とくしま安²農産物(安²GAP)(優秀)を取得。2020東京オリ・パラ選手村へ「GOTTSO美～[®]ナス」を納品した。

活動の効果

- 「GOTTSO阿波」では、これまで販売ルートの開拓や営業を自ら行ってきたため、独自の販売ルートを確立している。
- グループでの活動を通して、普段であれば交流する機会のない人たちとの関わりができたことにより、新たな情報や、消費者の声を直接聞く機会が増えた。
- 美～ナスを知ってもらうため、地元小学校で始めた食育が年数を重ねるにつれ、野菜好きの子供が少しずつ増加し、農業に興味を持ってくれるようになっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

グループの強みは仲間同士で協力し活動ができること。若手の農家を引き入れて、楽しみながら農業で儲けられるような「新たな農業」を目指していきたい。

住 所 ・ 電 話 番 号 ・ S N S 等

阿波市阿波町下喜来南174-7 Tel:090-3787-2756

とくていひえいりかつどうほうじん やま やくざいし
特定非営利活動法人 山の薬剤師たち

～農業を通じて幅広い人が笑顔になってほしい～



農業を学ぶ高校生との共同作業



高床式砂栽培ハウスにて体験見学

経緯

- 過疎地域における医療サービスを始めとする支援体制の構築により、住民が住み慣れた地域で少しでも長く暮らし続けられることを目的に活動している。
- 支援体制のひとつとして農福連携により、障害がい者の就労支援、高齢者の活躍の場の提供等を行っている。

取組内容

- 農業教育の場で農福連携を浸透させるため、農業を学ぶ学生と障がい者との共同作業の機会を提供。
- 軽負担でマニュアル管理しやすい高床式砂栽培ハウスを新設。障がい者だけで管理する自立型農園を目指し、障がい者の担い手を育成している。
- 「地域にない農法での農福連携」というインパクトを利用し、様々な媒体、手法で農福連携の必要性の普及に取り組んでいる。

活動の効果

- 障害者をより身近に感じた学生等が、将来農業を営む際に障がい者とともに働くことが選択肢に加わることを期待している。
- イベントでのチラシ配布、徳島新聞掲載、NHKとくしまへの出演、見学会の開催等により、農福連携の普及と理解が浸透した。
- 高齢者施設の入所者に収穫体験をしてもらう等、レクリエーションや園芸療法として農業に触れてもらうことで、明るく元気に暮らすきっかけにつながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

あらゆる切り口（農福連携もそのひとつ）で地域と向き合い、住み慣れた地域で安心して生活し続けることができる地域づくりに貢献していこうと考えています。

住所・電話番号・SNS等

阿波市吉野町柿原字原194-1 Tel:088-676-3380

ひのき みきこ
檜 美紀子

～人・植物・環境に優しい庭づくり～



庭の風景 前庭



地元幼稚園のお散歩遠足

経緯

- 化学肥料、農薬散布できれいな花が咲くと信じ、庭づくりをしていたが、農薬アレルギーの不安から作業が苦痛になり始めていた。
- ふと植物の持つ生命力に賭けてみよう、と、農薬を止め有機での栽培を開始。
- 10年ほどで、土壌、生態系の変化から花が大きく香り高く咲くようになり、オープンガーデンを開始。

取組内容

- 無農薬、自作の有機肥料による「人・植物・環境に優しい庭」で誰もが気軽に楽しめるオープンガーデンを、春、秋の年2回、20年以上にわたり開催。
- 平成24年、「阿波オープンガーデンクラブ」を結成し同クラブの会長となり、次年から「阿波オープンガーデン」を開催。令和2年に脱退し、個人での開催に戻る。
- 幼稚園児の遠足先、老人介護施設の見学先として、自宅ガーデンに受け入れている。

活動の効果

- 平成25年から市協賛イベントとして開催している「阿波オープンガーデン」は、年間数千人の来場客を迎える春の一大イベントとなっている。
- 同イベント期間中は、周辺商店等の集客率も増加し、市の認知度アップにも貢献している。
- オープンガーデンが、人々との交流や癒しの場となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

たった1日だけから始めたオープンガーデンが、たくさんの人を動かし、町を揺さぶり「あのお花の町？」と市の認知度が上がりました。
たくさんのお花でお出迎えできるように、日々努めていきたい。

住所・電話番号・SNS等

阿波市阿波町北原151番地 Tel:090-9458-2251

～手のひらの茶葉を豊かな農文化と伝統に～



渚名茶 茶畑



緑茶セミナー in シンガポール

経緯

- 穴吹町出身の理事がUターンして始めたカフェ「二とハ」。
- 令和4年1月にNPO法人化し、世界農業遺産認定の地、穴吹町渚名で茶畑の管理活動、地元高校生とのフィールドワークを実施。
- Tea.Mは「二とハ」と連携し、希少な茶葉「渚名茶」の販売、集落のブランディングを担っている。

取組内容

- 茶葉を使って集落のブランディング
緑茶の製品化を進め、令和5年には4種類の製品を主にオンラインにて販売。
- 海外への挑戦
シンガポールで商談会への参加や、緑茶セミナーを開催。希少な茶葉を使い、飲むだけではない緑茶の魅力を発信。
- 廃棄茶葉の活用
廃棄茶葉を用いて、サステナビリティに配慮した新素材を開発中。

活動の効果

- 未来の子供たちへ世界農業遺産に選ばれた農耕システムの継承と、伝統を守りながら新しい農文化を生み出すふるさと協働事業への挑戦。
- 渚名集落の魅力や、ここにしかない価値を広く発信することで、関係人口の増加につながった。地域内外の人たちが、それぞれに渚名を思い、つながることで、新しい集落の形を見つけている。

応募団体からのアピール・メッセージ

伝統と文化、お茶の可能性を引き出しながら、渚名茶をきっかけに日本のお茶文化や、飲むだけでなくお茶の魅力を広めています。
世界農業遺産認定の地、穴吹町渚名でお待ちしています。

住所・電話番号・SNS等

美馬市穴吹町穴吹字藤原11-1 Tel:090-9453-1442

しではらじちかい
仕出原自治会

～清流穴吹川と自然を楽しむ人気のスポット～



尾下自治会長と愛犬(「しでの家」の前で)



ブルーベリー狩りの様子

経緯

- はっさくの産地「仕出原集落」は、少子高齢化、後継者不足、鳥獣被害、耕作放棄地拡大等多くの問題を抱え、集落存続の不安があった。
- 各種支援制度を活用し、地域の環境整備に取り組んだ。また、美馬市から「リバーサイドしでの家」の運営を委託され、村おこしの起爆剤となっている。

取組内容

- 清流穴吹川を取り巻く景観維持のため、道路の草刈り等の環境整備を実施。
- はっさくは、EUへ輸出。毎年2月には「はっさくフェア」を実施。
- 「しでの家」は夏場の川遊びやブルーベリー狩りの人気スポットとなっている。
- はっさく収穫のため、協働パートナーを受入れ。

活動の効果

- はっさく※は、EUへの輸出で知名度アップが図られている。また、ブルーベリー※狩りは好評で、リピーターも多いことからブルーベリー観光農園を増園した。
- ※はっさく、ブルーベリーとも「とくしま特選ブランド認定」
- 「しでの家」の運営を通じ、集落の活性化や集落と外部の人々との交流が深まり、協調性が醸成された。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域伝統のはっさくを守り、品種変更をせず栽培を継続することが希少価値を高めている。「はっさくシャーベット」「ブルーベリーアイス」は「しでの家」の名物になっている。農業体験を通じ、I・Uターン者の受入れと空き家利用について自治会で検討中である。

住所・電話番号・SNS等

美馬市穴吹町口山字仕出原80 Tel:0883-52-0468

いかわあかねほぞんかい あかねのもり

井川茜保存会「茜の杜」

～茜でつながる広がる地域の輪～



ストール、ハンカチ、キーホルダー



地元小学生の茜染め体験会

経緯

- 染料として希少価値のある日本茜が、令和3年、井川地域でたくさん自生しているのが見つかる。
- 日本茜により、古代の色を再現し、茜染め製品の開発・販売を行うとともに児童生徒や地域住民への茜染め体験活動を通して地域の活性化を図りたいと考え、井川茜保存会「茜の杜」を立ち上げた。

取組内容

- 日本茜の栽培地に休耕地や耕作放棄地を活用し、会員一丸となって栽培面積の拡大に取り組んだ。
- 染め工房の整備やワークショップの開催、県外から講師を招いた体験研修の実施などにより染色技術の向上や茜染め製品の開発に取り組んだ。
- 茜染めの良さの周知や会員間の相互交流、情報共有のため、パンフレット等作成や広報誌作成に取り組んだ。

活動の効果

- 耕作放棄地を日本茜の栽培地として活用したことが、近隣住民にとっては環境や景観保全に役立った。
- ハンカチなどの製品化に加え、革素材の茜染め製品の開発にも成功。また、「ふるさと納税返礼品」や「三好の逸品」に登録し、市の特産品として周知されつつある。
- 茜染めを活用した小中学生の活動や他団体との連携は、周辺地域へ茜染めの価値を広める良い機会となり地域の活性化に役立っている。

応募団体からのアピール・メッセージ

日本茜の安定した供給のため栽培地の拡張を図り、茜染め製品開発と品質向上に努めるとともに、販路開拓を行い地域の活性化を図る。

住所・電話番号・SNS等

三好市井川町辻60番地1 Tel:090-3184-1023



いっばんしゃだんほうじん

さと

一般社団法人そらの郷

千年のかくれんぼ～分け入るごとに時は遡り



伝統的な農作業ツチアゲ体験



地元農家との交流(餅つき体験)

経緯

- 農山村の暮らし体験や受入家庭と交流する体験型教育旅行の受入組織「そらの郷山里物語協議会」を、平成23年に「一般社団法人そらの郷」として法人化。
- 令和3年度に重点支援DMOに選定され、にし阿波観光圏の観光地域づくりプラットフォームとして、官民連携による農山村の観光地域づくりに取り組む。

取組内容

- 世界農業遺産に認定された「にし阿波の傾斜地農耕システム」による農業が営まれる地域への体験型教育旅行の受入れに取り組み。受入家庭での農作業や共同調理をメニューとした農泊体験を商品化。
- インバウンド向けに、農山村の畑の散策や地元農家での餅つき体験等、交流コンテンツを組み込んだツアーを開発。

活動の効果

- 体験型教育旅行宿泊者数は、平成20年度の977人泊から令和5年度には7,000人泊を超える見込み。
- インバウンド誘致数は、平成25年の4本から令和5年には23本のツアーを受け入れ。
- 観光客の増加により交流人口の増加、観光事業者、農業者等所得の向上と新たな雇用の創出により地域の活性化を実現。

応募団体からのアピール・メッセージ

訪日教育旅行や企業・大学研修等を誘致するため、教育効果の高いプログラムを開発するとともに、その実現に向け地域関係者等との連携を強化する。住んで良し訪れて良しの観光地域づくりを推進し、世界に通じる競争力の高い観光地域を目指す。

住所・電話番号・SNS等

三好市池田町シマ995-1 Tel:0883-76-0713